Review

Fuji Champion Race Series Round 2

2022.5.14-SAT15

今シーズンも始まったこのカテゴリー。第1戦はN1500とBeetle Fun Cupのエントリーがあったが、それぞれ1台ずつのエントリーのため、レースは不成立となるものの、4クラス混走での開催となった。予選は雨のコンディション、その中でトップタイムを出しポールポジションに決まったのはN1400 #21 DLμ NUTECスターレット 大竹直 2'17.761、フロントローに並ぶのはN1400 #3 フジツボミッドランドED82 山田大輔2'18.371。Beetleは総合7番手タイムで#19 Beetle Fun Cup 川端伸太朗 2'21.090。Audi A1は#107 Nyazoo Racing 873 A1 森花海の2'27.321がトップタイム。N1500は#91 vitz NCP91 犬飼祐揮2'34.650となっている。

決勝レースのスタート時には、雨は小降りになったものの、コース上各所に霧が降りていた。コース上では、なんとか視界が確保されている状況の中で、フォーメーションラップが開始され、一旦グリッドに全車整列し、スタートが切られた。好スタートでトップを守る#21大竹に3番グリッドからの#26 がんばれなるげっちゃんEP82 斎藤和実が迫る。いつものように#21大竹、#26斎藤、#3山田の最後までわからない接戦となるかと思われたが、#21大竹がコンマ差ながらも2番手以降に少し間を空けてトップチェッカーを受けた。Audiはかなりの接戦で、2番手ポジションからスタートした#109 RCIT Audi A1 藤田真哉がオープニングラップでトップに立つが、2周目には#107森が抜き返し、また次の周には#109藤田が抜き返すなど、その後もバトルが繰り広げられたが10周の決勝は#109藤田がトップチェッカーを受けた。

N1400優勝の#21 大竹は「スタート前のフォーメーションラップの時には霧は降りてきましたが、コース上は雨でしたのでそれほど見えないということはなかったです。タイヤはみんなウェットで行こうとしていたので、自分もそのままウェットで行きました。今シーズンもこのまま頑張ります」と話し、Audi A1 Fun Cup優勝の#109藤田は「今年からレースを始めたばかりで、ウェットのレースも初めてだったので、すべてが手探り状態で臨みました。森さんの前には出られたもののぴったりとついてきていたので、最後まで気の抜けない状態でした」と語った。

RESULT リザルト N1400

Rank	No.	Name
1	21	大竹 直
2	26	斎藤 和実
3	3	山田 大輔
4	84	竹田 幸一郎
5	5	水谷 明彦
6	57	小山 正博

RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank	No.	Name
1	109	藤田 真哉
2	107	森 花海
3	105	並木 重和
4	102	森 慎一
5	104	飯島 宗久
6	108	伴 信

富士チャンピオンレース第2戦が開幕戦となったFCR-VITAシリーズ。VITAのマシンは比較的手の届きやすい価格で買えることと、全国のサーキットでシリーズ戦も開催され、なによりもドライバーやメカニック達にも大変勉強になるカテゴリーになっていることから、参加台数も年々増えてきている。他のサーキットでは昨年や一昨年からシリーズ戦に耐久レースも組まれてきたが、FCRシリーズでは、今回の開幕戦で初めての2時間耐久レースの開催、総勢43台のエントリーとなった。ドライバーラインナップも1人～3人で参加できるとなっており、各サーキットで上位にいるVITA参戦ドライバーからKYOJOのドライバー、さらには国内トップドライバー達の名前も見受けられ、すばらしいレース展開が期待された。また、今回設定されたMixed-Genderクラスは、男女一人ずつのドライバーが組むクラスで、43台中15台が対象となる。土曜朝の予選でポールポジションとなったのは#18 ムータレーシングVITA 堀田誠/阪口良平組2'19.928で、フロントローに並ぶのは#23 TKRI 松永建設 VITA DAISUKE/TATSUYA KATAOKA組2'20.240と決まった。

ローリングラップの後11:49にスタートかきられ、オープニングラップをトップで戻って来たのは4番手スタートの#22 CPホールディングワコーズED VITA富田竜一郎/富田栄造組。そのままトップを守るが9周目にSC導入があり、13周目に再スタートの際には#32 ビーフラット横浜grVITA 武村和希/並木俊貴がトップに。その後14周目あたりから一度目のピットインをこなすマシンが徐々にでてくると順位も変動してくるが、トップ8台は団子状態でバトルを繰り広げている。レースも折り返しを過ぎた13:10頃には空が明るくなってくるが路面はウェットのまま。そして終盤にさしかかってきた13:36、46周目には#87 おさきにどうぞVITA☆MIX大竹将光/山本龍組がトップに立つ。#87は給油を一度しかしていないので、このまま持つのかと心配させられたが、その後も淡々と周回を重ね2時間の耐久レースをトップでチェッカーを受けた。2位には#50 BRM VITA 塚田海斗、3位はMixed2位で#37 Keeper VITA MIX 翁長実希/徳升広平となった。両クラスで優勝した#87大竹は「山本さんから無事バトンをつないでもらったので頑張りました。このペアで鈴鹿の耐久も出たいと思います。」山本は「1回ピット作戦は狙っていました。燃費の良いマシンとドライビングのおかげでVITAで初優勝できました」と語った。

RESULT リザルト FCR-VITA

Rank	No.	A Driver	B Driver
1	87	大竹 将光	山本龍
2	50	塚田 海斗	
3	37	翁長 実希	徳升 広平
4	21	新井 薫	いむら せいじ
5	32	武村 和希	並木 俊貴
6	22	富田 竜一郎	富田 栄造

RESULT リザルト FCR-VITA Mixed Gender

Rank	No.	A Driver	B Driver
1	87	大竹 将光	山本龍
2	37	翁長 実希	徳升 広平
3	36	荻原 友美	小河 諒
4	337	斎藤 愛未	坪井 翔
5	47	下野 璃央	道上 龍
6	101	岩岡 万梨恵	福岡 宝昌

6年目を迎え、年々参加台数も増えてきて、華やかさが増しているKYOJO CUPが今シーズンの開幕となった。日曜日の予選・決勝ともにドライコンディションで行われた。予選でトップタイムを出し開幕戦ポールポジションを決めたのは、#37 KeePer VITA 翁長実希2'00.798。フロントローに並ぶのは#38 LHG Racing YLT VITA 猪爪杏奈2'00.880。

決勝では#37翁長がトップで1コーナーに消えて行くが、その後ろでは激しい2番手争い。オープニングラップでは、6番手グリッドから#47 Keeper VITA 下野璃央が4番手にポジションアップしてきた。2番手争いの4台がバトルを繰り広げている隙に#37翁長はファステストラップを更新しながら徐々にタイム差を広げてきれいる。3周目には#47下野と昨日のFCR-VITA2時間耐久で優勝した#87おさきにどうぞ☆VITA山本龍、#337 D.D.R VITA-01 斎藤愛未、#36 KNC VITA 荻原友美の3番手争い。#47下野は3番手キープをしながら徐々に#38猪爪との差を縮め9周目のTGRコーナーでインから、2番手に浮上。その後#38猪爪も何度も並びかけるが、12周の決勝レースは#37翁長が2位に10秒のタイム差をつけてポールトゥウィンを決めた。2位には0.1秒差で#47下野が先にチェッカーを受ける。3位には#38猪爪といった結果になった。レース終了後#37 翁長は「スタートは少しホイールスピンをしてしまいましたが、トップを守り切ることが出来ました。ひたすら自分との戦いだと言い聞かせて逃げ切れました。この3月に地元沖縄の大学を卒業して御殿場に引っ越しをし、レースを行うための良い環境も作れましたのでますます頑張ります」と語った。

RESULT リザルト KYOJO

Rank	No.	Name
1	37	翁長 実希
2	47	下野 璃央
3	38	猪爪 杏奈
4	337	斎藤 愛未
5	87	山本 龍
6	36	荻原 友美

BMW & MINI Racing.2022 Round 2

今シーズンからMINI Challenge JapanシリーズにBMW M2 CS Racing Seriesが加わり、3クラス混走で全5大会各2戦、計10戦で全国のサーキットを転戦するBMW & MINI Racing.2022。スポーツランドSUGOで第1大会行われ、第3戦・第4戦がここ富士で開催された。

日曜日の予選は昨日までの雨は夜中に上がりドライコンディションで行われ、トップタイムを出したのはM2CSR #8 LOVECARS!BMW 河口まなぶ1'51.613。フロントローには#18 BRP★Toto BMW M2 CS Racing 奥村浩一 1'51.817が並ぶ。MINI JCWでは総合5番手の#19 BRP★木村金属 F56 JCW EVO 木村建登の1'57.213。CPSでは総合10番手の#77 ガレージピットハウスF56S 古田聡の2'08.143。

第3戦決勝は、スタートで#8河口が押さえTGRコーナーへ。オープニングラップを戻って来ると、3番手スタートの#101 リーガルトップレーシング 高橋裕史が2番手にポジションアップ。#8河口に何度も近づいたが20分+1周のレースは12周で#8河口が逃げ切った。MINI JCWではオープニングラップでトップに立った#9 IDI平田空調RH坂井F56JCW 平田雅士が優勝。MNI CPSは#77古田が優勝。

レース後各クラスの優勝ドライバーはBMW#8河口「上手な皆様なのでたまたま守り切れましたがずっとハラハラドキドキでした」MINI JCW#9平田「スタート上手くいって、ようやく勝てました」MINI CPS#77古田「ポールが取れてオープニングラップで後ろがやりあってくれたから逃げ切れました」と語った。

この日の最終レースとなった第4戦は、リバースグリットが採用され、ポールポジションはBMW#101高橋、フロントローに#8河口が並び、MINI JCWは#57小平、CPSでは#32 IDIアウティスタ★MINI F56CPS川副健太がトップからのスタートとなった。

オープニングラップのTGRコーナーでアクシデントがあり、SCが入りそのまま5周をSC先導、6周目に再スタートが切られた。その後は#18 奥村がトップを守っていたが最終ラップで#8河口が前に出て先にチェッカーを受けるもペナルティで降格があり、#18奥村が優勝した。MINI JCWは混戦を抜けて#19木村が優勝。CPSでは#32川副が優勝した。レース後の優勝ドライバーコメントBMW#18奥村「サバイバルレースに生き残れました！マシンが重いので、ちょっとのクラッシュでもマシンダメージが大きいですね。この富士のようなコースは楽しいですが次回のもてぎのようなコースはこのマシンは大変かも？」JCW#19木村「ホッとしています。鈴木さんに行かれちゃうかと思っていたので。スタート直後のアクシデントはどちらに避けようか！？と思っちゃいました」CPS#32川副「一度のミスで前に行かれちゃう状況だったのでかなり気を使いました」

RACE 3

M2CSR

RESULT リザルト M2 CSR

Rank	No.	Name
1	8	河口 まなぶ
2	101	高橋 裕史
3	18	奥村 浩一
4	55	石井 一輝

JCW

RESULT リザルト JCW

Rank	No.	Name
1	9	平田 雅士
2	17	鈴木 建自
3	57	小平 直紀

CPS

RESULT リザルト CPS

Rank	No.	Name
1	77	古田 聡
2	52	森岡 史雄
3	32	川福 健太
4	5	面野 一
5	190	恩塚 一将
6	36	定村 吉高

RACE 4

M2CSR

RESULT リザルト M2 CSR

Rank	No.	Name
1	18	奥村 浩一
2	8	河口 まなぶ

JCW

RESULT リザルト JCW

Rank	No.	Name
1	19	木村 建登
2	17	鈴木 建自
3	500	中島 功
4	57	小平 直紀

CPS

RESULT リザルト CPS

Rank	No.	Name
1	32	川福 健太
2	5	面野 一
3	77	古田 聡
4	52	森岡 史雄
5	190	恩塚 一将
6	36	定村 吉高

今年も開幕を迎えたインタープロトシリーズ。まずは年々速さと上手さのレベルアップを魅せてくれているジェントルマンクラス。土曜日の予選ではベストタイムが第1戦、セカンドベストタイムが第2戦のグリッド順となっているが、今回はベストもセカンドも同じドライバーラインナップとなった。ポールポジションはIP Eクラスの#32 NETZ NOVEL MIE 永井秀貴2'01.511/2'01.790。フロントローは#37 キーパー号 大蔵峰樹2'01.935/2'02.126。IP Gでは#77 CARGUY 山崎祐介2'03.806/2'04.228。SUPRAでは総合でも3番手のタイムを出した#71 ダイワN通商アキランドレーシング 大山正芳2'02.806/2'03.385、CCS-Rは#51 P.MU RACING CCS-R 豊島豊2'12.244/2'12.352という結果になっている。

土曜日14:40に第1戦のスタートが切られ、ウェットコンディションの中、スタート直後から#32永井と#37 大蔵の激しいトップ争いが続き、その後ろでは3番手争いも熾烈。SUPRAはオープニングラップで#38 P.MU RACING SUPRA卜部治久が前に出て徐々に引き離していく。激しい総合トップ争いは8周目のコカ・コーラコーナーで#32大蔵が前に出るも11周目には#32永井が抜き返し、12周の決勝は#32永井のポールトゥウィンとなった。レース後#32永井は「嬉しいです！クリーンなレースで楽しかった」と語り、IP G優勝の#77山崎は「クリーンなレースができました。木村さんのピンチヒッターで出場しましたが、良い報告が出来て良かったです」SUPRA#38卜部「昨日久しぶりに走って、ドライとウェットの両方試せたので良かったです。セットもドンピシャに合わることが出来ました」とコメント。

翌日曜日の第2戦は、雲が多いものの合間から太陽が顔を出すドライコンディションの中で行われた。スタート直後から逃げる体制に持ちこむ#32永井の背後では#37大蔵と#77山崎、#3FLYING RAT #96末長の2番手争いとなる。2周目には#37大蔵がミスで順位を大きく下げてしまうが、そこからはファステストラップを更新しながら怒涛の追い上げを魅せ、レース終盤には2番手争いの集団まで順位を戻す。#32永井はバトルを続ける2位以下とのタイム差を広げてポールトゥウィン。2位にはラストラップで4番手からポジションアップした#37大蔵が入った。#77山崎が総合3位でIP Gクラス優勝という結果となった。レース後#32永井「今日は1周目で自分のペースができて淡々と走れました」#77山崎「ストレートが遅いセッティングでバトルは大変でしたが優勝出来て良かったです。昨夜海外に行っている木村さんから連絡があり、動画を見ながらアドバイスをしてきただき気が引き締まる思いで今日にのぞみました」と語った。

Round 1

RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	32	永井 秀貴
2	37	大蔵 峰樹
3	3	FLYING RAT

RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	77	山崎 裕介
2	96	末長 一範
3	16	渡邊 久和
4	7	勝又 隆二
5	88	八木 常治

RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	38	卜部 治久
2	71	大山 正芳

Round 2

RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	32	永井 秀貴
2	37	大蔵 峰樹
3	3	FLYING RAT

RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	77	山崎 裕介
2	96	末長 一範
3	7	勝又 隆二
4	16	渡邊 久和
5	88	八木 常治

インタープロトシリーズは、ジェントルマンドライバーと国内トップドライバー達が同じ"クルマ"をシェアして、それぞれスプリント×２レースで行われるシリーズ。今年の開幕戦を迎えた。

土曜日に行われた公式予選はウェットコンディションの中で行われ、トップタイムを出したのは#32 NETZ NOVEL MIE 坪井翔1'59.865。2番手には#3 INGING MOTORSPORT 阪口晴南1'59.887。3番手には#37 キーパー号福住仁嶺1'59.941。4番手が#7 J-POINT 野尻智紀2'00.295というグリッド順になった。SUPRAでは総合でも6番手で#38 P.MU.RACING SUPRA石浦宏明が2'00.818のトップタイムを出してクラストップに。

日曜日の決勝はドライコンディションで行われ、第1戦スタートは#32坪井がTGRコーナーをトップで最初に進入、その背後では激しい2番手争い。3周目には6番グリッドスタートの#16 ララパルーザ Ronnie QUINTARELLIが2番手に上がってくる。しかしながら、レース中盤から#37 福住がファステストラップを更新しながら2番手に浮上。目まぐるしく順位が変動する大接戦の第1戦は、#32坪井、#37福住、#3阪口の順でチェッカーとなった。SUPRAは#38石浦が逃げ切ってトップチェッカー。

チェッカー後にそのままグリッドに着き、5分後に第2戦のスタートが切られた。TGRコーナーへ最初に飛び込んだのは#32坪井がオープニングラップをトップで戻ってくる。そして6番グリッドからスタートの#96岡山トヨペットK-tunes中山雄一が3番手までポジションを上げてきた。2周目には#37福住がトップに立つが、3周目には再び#96中山がトップに立つものの、背後には#7野尻が僅差で追ってきている。6周目には、クラス最後尾からスタートだった#88 Pastel Motorsport佐々木大樹が3番手まで巻き返してきた。8周目そこまでも何度も並びかけてきた#7野尻がコカ・コーラコーナーで#96中山の前に出て、ラストー周、#96中山も必死に追うものの、9周の決勝は#7野尻、#96中山、#88佐々木の順でチェッカーとなったが、＃88佐々木は他車への衝突により、競技結果に30秒加算となった。SUPRAは第1戦に続いて#38 石浦が優勝した。

レース後の優勝ドライバー SUPRA#38石浦「参加が3台の予定だったのに、2台になってしまって少々寂しいですね。前回の昨年最終戦では片岡さんに負けたので今回までのインターバルの間にマシンをいかにして速くできるかいろいろテストはしてきました。今回はリスクはおわないように気を付けて走っていました。IPS Pro＃7野尻「優勝は出来ましたが、自分の中ではまだまだ課題が残ってしまってますので、次回までには克服して連勝できるように頑張ります」と語った。

Round 1

RESULT リザルト IPS

Rank	No.	Name
1	32	坪井 翔
2	37	福住 仁嶺
3	3	阪口 晴南
4	7	野尻 智紀
5	16	Ronnie QUINTARELLI
6	96	中山 雄一

RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	38	石浦 宏明
2	71	谷川 達也

Round 2

RESULT リザルト IPS

Rank	No.	Name
1	7	野尻 智紀
2	96	中山 雄一
3	16	Ronnie QUINTARELLI
4	3	阪口 晴南
5	77	松田 次生
6	88	佐々木 大樹

RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	38	石浦 宏明
2	71	谷川 達也